

いのち

生命のにぎわいとつながり

No.42

平成27年3月

今年も、春の到来を告げる「さくら」の季節がやってきました。生命(いのち)のにぎわい調査団の団員からも、ツバメの初飛来やカントウタンポポの開花を告げる報告が生物多様性センターに寄せられています。

本号では、「いすみ生物多様性戦略」の策定に際して行われた、生物多様性にかかわるアンケート調査とその分析結果等について紹介するとともに、平成26年11月24日に開催された生命(いのち)のにぎわい調査団の現地研修会の開催結果についても報告します。

「私の生物多様性」、地域戦略づくりのアンケート調査より

平成20年6月に施行された「生物多様性基本法」により、都道府県をはじめ市町村での生物多様性戦略づくりも活発化しています。そのような中、平成27年2月にいすみ市で「いすみ生物多様性戦略」が策定されました。その策定検討委員会の中で、生物多様性にかかわるアンケートづくりとその分析にかかわった経験を踏まえ、地域戦略づくりの参考になればと思い、その結果を紹介します。

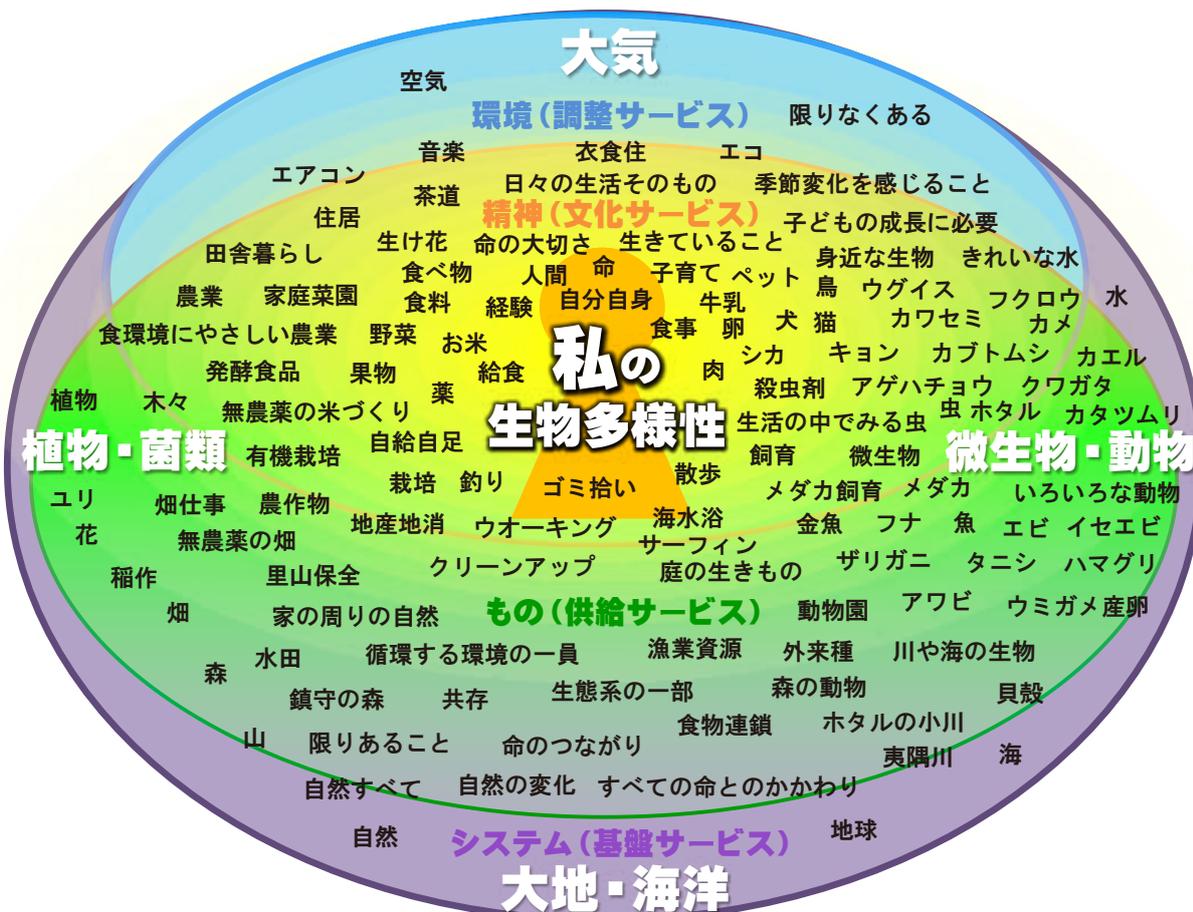


図1.「私の生物多様性」(第2問 あなたにとってかかわりのある生物多様性)

CONTENTS

- 1 「私の生物多様性」、地域戦略づくりのアンケート調査より..... 1
- 2 生命(いのち)のにぎわい調査団の現地研修会を開催しました 3
- 3 千葉県希少種(ワスレナグモ)..... 4

●アンケートの問の設定

生物多様性の状態は地域によってさまざまです。したがってその問いも地域によって異なるのは当然ですが、普遍的な問いかけも重要です。そこで生物多様性にかかわるアンケートの中に、以下の3つの問いを盛り込むことになりました。

第1問は「生物多様性の言葉との出会い」に関する問いです。これまで、人々に「生物多様性を知っていますか」と問いかけた調査事例があります。しかし、「知る」の回答は「その言葉を知る」場合と「内容まで知る」とでは大きく異なります。そこで第1問は、「言葉としての生物多様性との出会いレベル」と「その意味や内容の理解へのレベル」を分け、以下のような問いにしました。

第1問 これまでに「生物多様性」という言葉を見たり、またはその文字を見たりしたことがありますか？

- ア. 生物多様性という言葉を見たり聞いたりしたことがあり、意味も理解している。
- イ. 生物多様性という言葉を見たり聞いたりしたことがあるが意味の理解は十分ではない。
- ウ. 生物多様性という言葉を見たり聞いたりしたことはない。

第2問は「私にとっての生物多様性」に関する問いです。生物多様性は全ての人にかかわり、その問題や課題も全ての人にかかわるものです。各人がそれぞれの生活の中でかかわっている生物多様性について、自由に記載してもらえらる設問にしました。

第2問 あなたにとってかわりのある「生物多様性」を挙げてください(次ページの「生物多様性」の定義をご参考にしてください)。

当然、第1問において、このアンケートで生物多様性をはじめて知る人も想定されます。したがって、この第2問では、以下のようなわかりやすい生物多様性の定義をアンケート用紙の中に盛り込みました。

「生物多様性」とは

地球の誕生以来、その長い歴史のなかで多種多様な生物・生命が育まれました。現在、地球上には、まだ人が知らない生物を含めると約3,000万種ともいわれるたくさんの生物が生きています。

たくさんの生物の種(しゅ)は、たくさんの個体、そしてたくさんの細胞や遺伝子からできています。また、たくさんの生物の種によってさまざまな森や海の生態系がもたらされます。このような遺伝子から種、そして生態系のレベルまで、生物・生命にみられるいろいろな変異や変化、そして生物間のさまざまなつながりと関係のすべてを「生物多様性」と呼んでいます。

私たち人間も、生物多様性の一員です。毎日食べる米や野菜、肉や魚から木材や医薬など、私たちは生物多様性の恵みで暮らし、また、きれいな水や空気、そして豊かな芸術・文化、さらには心のやすらぎも豊かな生物多様性からもたらされます。

回答者には、この定義を参考に生物多様性をイメージしてもらい、その上で自身とのかかわりにおもいを巡らせてもらえるとの期待を込めました。

第3問は「生物多様性を守るおもい」に関する問いです。生物多様性を守ることを大切なことだと思うか、思わないかは、戦略策定後の市民の取組への参加にも関係する問いかけでもあります。

第3問 「生物多様性」を守るについてどう思いますか。

- ア. 大切なことだと思う。
- イ. 特に大切なこととは思わない。
- ウ. 特に関心はない。

アンケート調査の主催者は、生物多様性を守る取組が大切であると考えてアンケートを依頼するわけですが、取組を進めるためには市民の理解と協力が不可欠です。そこで、次のメッセージを生物多様性の定義とともに用紙に加えました。

「生物多様性いすみ戦略(仮称)」とは

いすみ市は、きわめて多くの動植物が息息・生育する生物多様性の宝庫といわれる地域です。私たちは、この豊かな自然とそれに育まれた豊かな文化を子どもたちの未来に伝えなければなりません。この生物多様性をしっかり認識しつつそれを保全・再生し、豊かさを損なうことのない持続可能な利用のみちすじを定めるものが「生物多様性いすみ戦略(仮称)」です。多くの皆さんのご意見を集約し、専門家や行政の意見も踏まえ、平成26年度内の策定を目指しています。

他の設問も含め、以上3つの問いを含めたアンケートを、平成26年6月～8月に小中学校の保護者やイベント参加者を中心としたいすみ市民の協力を得て実施し、1,265名(いすみ市の人口約4万人のうち約3%)から回答がありました。

●生物多様性との出会い

アンケートの結果から、「これまでに生物多様性という言葉を見たり聞いたりしたことがある人」は67%であり、その中でさらに「その意味も理解している」と回答した人は12%でした(図2)。このアンケートまで生物多様性の言葉を知らなかった人は33%でしたが、いすみ市はこれまでも生物多様性に関わる取組を進めてきた土地がら、多くの人が生物多様性を知り、またその意味も理解している状況にあることがわかりました。



図2. (第1問)「生物多様性の言葉を知っていますか?」の回答内訳

●人の生活と生物多様性

「あなたにとってかかわりのある生物多様性とは」の問いで示された回答の全てを、自然環境および生物多様性の要素、そして生態系サービスとのかかわりの中に位置づけたのが図1です。今回の調査から、自身とかかわりのある生物多様性として日々の衣食住やその必需品、また身近な自然環境とそこに生息・生育する動植物、さらには生物・生態系の法則や機能に至るきわめて広範なかかわりが示されました。最も多かったものが「食事」や「食べ物」などの「食」にかかわるものですが、「一人ひとりが生物多様性とのいろいろなかかわりのなかで生活していること」がわかりました。

●生物多様性を守る大切さ

「生物多様性を守ることは大切なこと」と思う人は、89%に達しました(図3)。第1問の結果から、このアンケートまでは生物多様性の言葉を見たり聞いたりしたことのない人が33%であったにもかかわらず、約9割にその大切さを理解してもらえたことは驚きの成果でした。これは、今回のアンケートで多くの人が生物多様性について知り、「生物多様性を守ることは大切なこと」として認識してもらえた結果であると思われる。



図3. 第3問「生物多様性を守ることは大切なことですか?」の回答内訳

今回のアンケート調査から、生物多様性に関する情報収集のみならずその普及啓発の効果も期待できることがわかりました。このような結果が今後の取組につながっていくことが期待されます。

(中村 俊彦 千葉県生物多様性センター・県立中央博物館)

いのち 生命のにぎわい調査団の 現地研修会を開催しました

「里山の秋をみつけよう!

紅葉のなかで秋の花や実、カワセミや
オシドリを見よう!!」11月24日(月・祝)

秋の現地研修会は、紅葉の美しい泉自然公園(千葉市)で開催しました。50名と今回もたくさんの団員が参加して園内を巡り、野鳥と水の中の生き物を中心に観察を行いました。

まず午前中は「つり橋」から紅葉した樹木(モミジの仲間、コナラ、ハンノキ等)の観察、そして「下の池」まで降りてカワセミ、オシドリ等を観察しました。朝にオオタカが上空を飛んだことで鳥の数が少し減ってしまいましたが、しばらくすると隠れていたバンやオオバンも出てきて、水面がにぎやかになりました。池のまわりをまわって「湿生植物園」で水辺の植物(ミクリ、アサザ等)、ニホンイタチとタヌキの足跡など観察してから坂を登り、上の草原(桜の広場)で昼食。ここではニホンノウサギの糞が確認できました。

午後はまた「下の池」へ降りて、許可をいただいて普段は入れない「島」の部分に入り、水辺の生き物の観察。わなと網を使って在来種のクロダハゼ、モツゴ、スジエビ、外来種のブルーギル、カダヤシ、アメリカザリガニなどを採集し、水槽でじっくり観察しました。島にはケンボナシの木があり、枝先が膨らんで甘いナシのように熟しているのを味わいました。初めてという方も多く、喜んでいただけましたようです。コナラの幹には、ニイゼミの抜け殻がまだたくさんついていてびっくり。



紅葉の泉自然公園：池で採集した淡水魚等の観察

最後は「菖蒲田」まで野鳥の観察をしながら歩き、ラクウショウの木の下で報告会。発見した生き物をチェックリストで確認しました。小さな団員さんたちの活躍で、思いのほか多くの昆虫も見ることができました。千葉市内に残された豊かな自然と、そこに侵入してしまっている外来生物に考えさせられる観察会となりました。

研修会で発見された生きもののリスト

※(外)は外来種

哺乳類：ニホンノウサギ(糞)、ニホンイタチ(糞・足跡)、タヌキ(足跡)

鳥類：オシドリ、マガモ、カルガモ、カイツブリ、ダイサギ、バン、オオバン、オオタカ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ツグミ、ジョウビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、カシラダカ、アオジ、アヒル(外)、シロガチョウ(外)

魚類：クロダハゼ(ヨシノボリ)、モツゴ(クチボソ)、ブルーギル(外)、カダヤシ(外)、コイ

爬虫類：ミシシippアカミミガメ(外)、ニホンカナヘビ

両生類：ニホンアマガエル

蛛形類：ザトウムシの仲間、カニグモの仲間、ジョロウグモ

甲殻類：スジエビ、アメリカザリガニ(外)

昆虫：オオカマキリ、コカマキリ、ウスタビガ、ムモンホソアシナガバチ、ブチヒゲヘリカメムシ、ヤニサシガメ、ヨコヅナサシガメ(外)、チャタテムシの仲間、オオアオイトトンボ、ニイニイゼミ(抜け殻)、クモヘリカメムシ、コバネイナゴ、オンブバッタ、ツチイナゴ、セスジツユムシ、モリチャバネゴキブリ、クロコノマチョウ(幼虫)

陸生貝類：ミスジマイマイ、ヒダリマキマイマイ

植物：チャノキ(花)、ヤドリギ、ケンポナシ(実)、イイギリ(実)、ロウバイ(実・蕾)、シロヨメナ(花)、タイアザミ(花)、フジカンゾウ(実)、リンドウ(花)、サラシナショウマ(実)、リュウノウギク(花)、ヤクシソウ(花)
(御巫 由紀 千葉県生物多様性センター)

千葉県の希少種

ワスレナグモ

(千葉県レッドデータブック：最重要保護生物A)



写真1 メス

写真2 オス

撮影 谷川 明男

草地、畑地、芝生などに10~30 cmほどの縦穴を掘って住むクモです。同じ地中性のクモであるトタテグモ類は穴の入り口に扉をつけますが、ワスレナグモはつけません。穴の中から入り口に前脚をかけて待ち伏せをして、通りかかる虫を捕らえて食べます。メスは黄褐色で体長15~18 mm、キバが大きくて脚は太く、グラマラスな姿をしています(写真1)。オスは黒色で体長5~8 mmと小さく、脚が細長くて、メスと同種には見えません(写真2)。

このクモは明治期の外国人学者によって採集されてヨーロッパに持ち帰られ、ドイツ人研究者によって1876年に新種として記載されました。しかしその後30年以上見つからず、「忘れないようにしていればやがてみつかるだろう」との願いを込めて、ワスレナグモと命名されたのだそうです。そのモコモコした姿、希少性、それに和名のロマンチックな響きによって、クモ好きの間では大変人気の高いクモです。

日本、韓国、中国に分布しており、国内では本州、四国、九州のほとんどの都府県から記録されていますが、確認地点は大変少ない種です。環境省レッドリストでは準絶滅危惧(N1)に指定されているのをはじめ、都道府県レッドリストでもクモを取り扱っている31都府県のうちの22都府県で掲載されています。これはキノボリトタテグモの23都府県に次ぐ数で、レッドリストの「常連種」です。千葉県内でも柏市、習志野市、船橋市、富津市、君津市から合計8地点で記録されているに過ぎません。しかし、それら地点の中には学校の校庭が4地点含まれていますし、野田市内の私の自宅庭でも発見されました(未発表)ので、注意して探せば意外に身近な場所で見つかるかもしれません。県内の多くの地点から確認され、その生息環境が保全されれば、将来的には保護生物のランクがAからB、Cへと下がるのが期待されます。その日が来ることを願ってやみません。

(萩野 康則 千葉県生物多様性センター)



生物多様性ちばニュースレター No.42 平成27年3月31日発行

編集・発行 千葉県生物多様性センター(環境生活部自然保護課)

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2 (千葉県立中央博物館内)

TEL 043(265)3601 FAX 043(265)3615 URL <http://www.bdcchiba.jp/index.html>